

地学と切手

トリニダートの
サー・ウォルター・ロー
リーによる
アスファルトレーク発見
切手



P. Q.

トリニダート・トバゴ (Trinidad and Tobago) は南米大西洋側のオリノコ河口付近にあるトリニダート島とトバゴ島からなる独立国である。トリニダート島は1498年コロンブスによって発見され、その後スペイン、オランダ、フランスなどにより領有されたが、1797年以来イギリスの領有になり、1962年独立した。

トリニダート島は面積約 5,000 km² の小さな島であるが、世界第1の天然アスファルト産地として知られていた。石油の探鉱も早くから行われており、1906年から産出されている。最近では BOLLU の浮遊性有孔虫の研究の場としても有名になった。この島の油田は島の南部地区とその東西延長上の海域に分布し、下部中新統のレンズ状砂岩またはシルト岩が主な産油層であり、原油はアスファルト分の多い重質油である。

アスファルトレークは1595年にサー・ウォルター・ローリー (Sir Walter Raleigh, 1552~1618) によって発見された。彼はエリザベス王朝の探検家、植民者、軍人、文学者として知られて、波乱の生涯を送った。1578年北西航路を探検、1584年エリザベス女王によりナイトに叙せられ、1587年には近衛隊長となった。1584年から89年にかけて北アメリカに植民し、女王にちなんでバージニアと命名したが成功しなかった。この時に旧大陸に初めてタバコをもたらしたことで有名である。スペインの無敵艦隊攻撃計画に参加し、撃退後はその財宝船攻撃を計画したが、1592年女王の不興を被り、しばらくロンドン塔に投獄された。

1595年5隻の艦隊を率いて南米の探検に出かけ、オリノコ川を400マイルさかのぼった。この時彼はトリニダートに上陸し、アスファルトレークを発見し、そのアスファルトで船体の補強をしたと伝えられている。彼はこの探検でスペインの植民地を襲ったが、これが彼の後の命とりとなった。女王の死後、スコットランドから来たジェームス1世は彼を反対者とみなし、ロンドン

塔に送って1603年死刑を宣告した。彼は猶予されてその後13年間塔内で生活し、世界史の著述をした。1616年一時ゆるぎされて再びオリノコ川に出かけたが、スペインの抗議と探検の失敗により1618年に処刑された。詩および散文にすぐれた作品を多く残している。

アスファルトは固体または半固体の歴青質混合物で、主成分はイオウ、窒素および酸素を含む高分子の複雑な炭化水素で、その他に通常多量の無機質を混有する。アスファルトは天然に産するものと、石油精製の際の蒸留残留物として得られるものとの2種あって、前者を天然アスファルト、後者を石油アスファルトというが、前者の生産量はわずかである。油田地帯に滲出して小規模の池を作ることがある。アスファルトレークとかアスファルトポンドと呼ばれる。

石油に起因するアスファルトレークは、この他にもう1つ地学と大きな関係がある。それは脊椎動物の骨格の宝庫としてである。うっかりして底無しのアスファルトレークにはまり込んだ動物、その声に誘われて近づき、結局は自分も共に沈んで行った肉食動物と、この沼は古代の動物にとっては恐ろしい地獄だった。最も有名なのは、ロスアンゼルス郊外の公園にあったもので、ここからは大小様々の第四紀脊椎動物の骨格が産出し、この中には絶滅したものも多い。

わが国ではかつて秋田県豊川に小規模なアスファルトレークがあって、明治末期に採取された。その際に産出した、ナウマン象の歯、鹿・猪の骨、鶴の足などが、広田万治郎氏から寄贈されて、秋田大学鉱業博物館に陳列されている。

切手は1935年に普通切手として発行されたが、その後1938年と1953年とにそれぞれジョージ6世とエリザベス2世の肖像入普通切手として発行されている。沖の艦隊上陸用ボートアスファルトを巡察するローリーが画かれ、下に Discovery of lake asphalt by Raleigh, 1595 と記されている。